



▲職人の「技」が光る工芸展示会（南丹工芸文化祭）

「技」を知る

今年で2回目の開催となった「南丹工芸文化祭」。昨年に引き続き、南丹市国際交流会館および南丹市立文化博物館において、南丹地域で活躍される工芸家の作品展示をはじめ、風土や環境を生かしたものづくりを2日間にわたって紹介。陶芸、木工、竹工、漆工、藍染、金工、染織、くみいなど、それぞれの技と感性が凝縮された数々の作品が並びました（工芸展示会）。一つ一つの作品が創り出す空間には、温かき、繊細さ、純朴さ、雄大さ、親しみ、洗練されたバランスなど、豊かな表情が広がっていました。訪れた人々は、個々に表現された「おもい」や「技」をじっくりと眺め、市内にこれほど多くの工芸家が在住し、伝統と創造の高い技術が根付いていることに驚きと感心の表情でした。

また、市文化協会連絡協議会に加盟するアマチュア工芸家の作品展示（文化事業共同展示会）や、市内の授産施設、共同作業所などで制作された作品も発表・販売しました（工芸作品発表会）。販売品の中でも人気があったのは『京のつちたま』。これは、南丹管内



▲『京のつちたま』の販売

の障がい者施設と京都伝統工芸大
学校、南丹保健所が協働で商品開
発し、昨年10月から販売を開始し
た手作りのオリジナル製品です。
一つ一つ、丁寧に丸められた色土
の玉が、優しくなんとも味わいの
ある表情で素焼きのアクセサリー
に仕上げられています。この『京
のつちたま』は、なんとたんハ
トショップ（西友亀岡店4階）
でも販売されています。

作品の展示・販売のほかに、今
年は京都伝統工芸大学の学生に
よる技の実演や体験コーナーを設
け、ものづくりを身近に感じてい
ただく機会を作りました。

はしづくり、キーホルダーづく
り体験は子どもたちに大好評。ノ
コギリやカンナなど、「ほんまも
ん」の道具を小さな手に持ち、真
剣なまなざしで制作に取り組む様
子が見られました。

また、合同開催の「南丹美術工



▲小さくても「ほんまもん」のカンナではしづくり体験

芸教育展」では、南丹地域の公立
の保育所、幼稚園、小学校、中学
校、高等学校、特別支援学校の幼
児・児童・生徒と京都伝統工芸大
学校の学生・卒業生らの美術工芸
作品を展示しました。次世代を担
う子どもたちのほほ笑ましい作品
や職人顔負けの力作がずらり。工
作や彫刻などの立体作品の部と、
絵画やデッサンなどの平面作品の
部、あわせて約1,000点が、
展示場所を分けて所狭しと並べら
れました。

前もって行われた審査会で選考
された特選（京都府知事賞、京都
府教育委員会教育長賞、南丹教育
委員会連絡協議会長賞、京都伝統
工芸大学校理事賞、京都新聞社